

平成2年度事業成果の概要

企画調査部

平成2年度は、センター設立4年度として組織・体制の整備を図りつつ、平成元年度に引続き、水辺空間利用の今後の動向・あり方の検討、水辺空間整備の計画手法、水辺空間の施設整備に係わる技術的な手法の研究開発等に重点的に取り組み、それらと併せて国、地方公共団体等より委託を受けて技術協力を行うとともに、諸資料の蓄積に努めた。また一般への広報・普及啓発活動を積極的に行った。

その具体的実施状況は、次のとおりである。

1. 高規格堤防(スーパー堤防)・超過洪水対策に係わる水辺空間整備に関する調査研究・技術開発

高規格堤防の横断形状の検討、地域計画と高規格堤防上の土地利用の検討、盛土施工に関する検討、高規格堤防に係わる流入支川等の処理方法の検討等を行った。

2. 流水保全水路・水質浄化対策に関する調査研究

江戸川については、流水保全水路内浄化方法の検討、流水保全水路としての近傍都市河川の活用方法の検討、河川浄化施設の検討等を行った。

淀川については、流水保全水路放流先調査として、桂川、淀川及び下流支派川水環境の現況・将来の検討と、流水保全水路計画の概要の検討を行った。

3. ふるさとの川モデル事業・マイタウン・マイリバー事業等の水辺空間整備に関する調査研究・技術開発

「ふるさとの川モデル事業」「マイタウン・マイリバー整備事業」等に関する調査研究と計画づくりを行っている。このため、街づくりからみた水辺空間のあり方・機能・役割、水辺空間整備を計画・立案する際の指針・方法論・整備の手法及び水辺空間の管理・保全・運営のあり方について調査研究を行った。

4. 海岸・河口・港湾に係わる水辺空間整備に関する調査研究技術開発

伊勢湾等における河口や海岸の保全をベースとした水辺空間のあり方、CCZの整備に関して、養浜技術、リゾート基地としてマリーナ等の導入施設の検討を行った。また沿岸域の防災と利用に寄与する人工バリア構想について調査研究を行った。

5. 地域開発・都市開発と水辺空間整備の調和に関する調査研究

- (1) 地域開発と水辺空間整備計画、河川・湖沼・海岸等の水面・水際線を活用した街づくり及び住宅整備について調査研究を行った。
- (2) 河川、公園、都市が一体となった地域整備計画、土地利用計画、都市施設整備計画について、整備手法、事業手法等の調査研究を行った。

6. その他の水辺空間整備に関する調査研究・技術開発

- (1) 水辺空間に関するデータベースシステムについての調査研究を行うとともに、データの収集に努めた。
- (2) 河道内樹木の効果・影響を調査検討し、植樹、伐採及び河道管理のあり方について調査した。
- (3) 護岸の景観あるいは機能に関する事例調査を行い体系化について検討した。
- (4) 多自然型河川工法について、わが国に適した技術開発のための調査研究を行った。
- (5) 河川マリーナの事例を収集するとともに、河川マリーナの設計と河川等での船舶繋留のあり方について調査研究した。

7. 水辺空間に関する広報・普及啓発

- (1) 講演会・研究会の開催
- (2) 水辺文化誌「フロント」の発刊
- (3) 機関誌「RIVER・FRONT」
- (4) パンフレット、ポスター、カレンダー、書籍の発刊

8. 国際協力

- (1) 欧州水辺空間の事情視察団の派遣
- (2) 「国際水都首長会議」の後援
- (3) ネパール、カトマンズ市のまちづくり計画の調査に参加
- (4) 日本とアメリカ及びスイスとの技術交流

項目	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度
高規格堤防(スーパー堤防)・超過洪水対策に係わる水辺空間整備に関する調査・研究・技術開発	7	9	11	9
流水保全水路・水質浄化対策に関する調査研究・技術開発	4	2	2	2
ふるさとの川モデル事業、マイタウン・マイリバー事業等の水辺空間整備に関する調査研究・技術開発	18	65	61	41
海岸・河口・港湾に係わる水辺空間整備に関する調査研究・技術開発	11	12	3	5
地域開発と水辺空間整備の調和に関する調査研究	7	20	30	26
その他の水辺空間整備に関する調査研究・技術開発	16	30	37	38
水辺空間に関する広報・普及啓発	4	13	22	24
国際協力	1	4	4	5
計	68	165	170	150